

第7回 高校生ものづくりコンテスト山形県大会 電気工事部門

山形県立新庄神室産業高等学校
事務局 姉 崎 剛

1. はじめに

当部門は山形市漆山の雇用能力開発機構山形センターを会場に6月18日(土)、19(日)の2日間に渡ってコンテストを実施した。

今大会には、昨年度より1校少ない7校からの参加申込みであった。1校で複数名の参加申込みがあり、参加人数は昨年度より1名少ない12名であった。

2. 課題

本大会では、全国大会の課題を基本とした。全国大会では、課題の寸法図は大会当日の発表となっていたが、作業の難易度等を考えて、寸法図は事前に提示することとした。また金属管の切断および曲げ加工については、あらかじめ課題に適した長さに切断して配布することとし、切断にかかる時間を省くことにした。

全国の課題では材料確認の時間が競技時間に含まれることになっていたが、本大会では事前に材料確認の時間を設けることとした。確認後は配布時の通りに戻した状態から競技を開始することとした。また回路の点灯条件についても当日発表ではなく、前日に審査員の先生から提示していただき、当日の競技を向かえた。

支給部品については山形県電気工事高等職業訓練校電気工事から提供いただいた物を一部使用することとした。

3. 競技

今年度の課題は昨年度に比べて競技時間が大幅に短く、また延長時間もない条件での競技であった。12名の参加選手のうち、時間内に作業を終了させることができたのが10選手、結線のミスなどなく完成させることができたのが6選手であった。

3. 結果

大会の結果、上位者は以下の通りである。

順位	学校名 (学年 学科)	氏名
1	山形工業高校 (3年電子システム科)	寒河江研吾
2	鶴岡工業高校 (2年電気電子システム科)	遠藤 雅樹
3	酒田工業高校 (3年エネルギー技術科)	後藤 佑太

4. おわりに

競技の時間だけでなく、年々課題の難易度が上がっているように感じる。県大会の技術的なレベルも高くなってきており、特に優勝を争った上位者の差は僅差で、高いレベルでの競り合いであった。一方で、時間ギリギリで完成させた選手や誤結線となった選手も半数いた。

課題は全国大会の課題を基本として、県大会独自のルールを設けての運営であった。金属管については事前に切断した状態での配布であったが、これを全国大会同様、切断作業も課題に加えた場合のことを考えると、非常にシビアな競技になることが予想される。上位者(上位大会への参加者)を選出するための大会運営であればそれでも良いと思われるが、日ごろの学習の成果を競い合う機会でもあり、上位大会との兼ね合いを考えると、課題の設定の難しさを感じた大会であった。また、課題の難易度に加えて、十分な練習を行うための材料費の確保など、指導する上での課題もあり、例年に引き続き各校で苦慮していることのようなのであった。

最後に、今年度も山形県電気工事工業組合様からは高額な材料提供をいただいた。また山形県電気工事高等職業訓練校様にも材料の提供と、先生方には審査と貴重なご助言をいただいた。この場を借りて深く感謝申し上げます。大会の運営に対して多くの方々にご支援・ご協力をいただきました。重ねて感謝申し上げます。